

# 食品に関するリスクコミュニケーション

食品安全委員会では、食品のリスクについて関係者相互の情報共有及び理解促進のため、意見交換会の開催、季刊誌・DVDなどの分かりやすい資料の提供、人材育成講座の開催、食の安全ダイアルや食品安全モニターからの意見・情報の受付などに取り組んでいます。

## 我が国における牛海綿状脳症（BSE）の国内対策を考える

HP <http://www.fsc.go.jp/koukan/risk-zenkoku1911/risk-zenkoku1911.html>

■ 平成19年11月19日～30日の間に、食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省の共催による「我が国における牛海綿状脳症（BSE）の国内対策を考える」という意見交換会が全国6ヶ所（名古屋、福岡、大阪、岡山、仙台、東京）で開催されました。これは、全国の自治体が20ヶ月齢以下の牛に対しても自主的に行っているBSE検査についての国庫補助が、3年間の経過措置を経て平成20年7月に終了するなど関係者の関心の高まりを受けたものです。

■ 東京会場では、まず、食品安全委員会プリオン専門調査会の吉川泰弘座長から我が国のBSE対策について、当委員会が平成17年3月時点で行った検査対象月齢見直しなどのリスク評価について講演が行われました。ここでは、BSE検査を全月齢を対象とした場合と、21ヶ月齢以上の牛に変更した場合のリスクの大きさは、どちらも「無視できる～非常に低い」という結論や、リスクをより小さくするための管理措置への提言について説明がありました。

■ 次に、農林水産省から、世界のBSE発生件数の推移や、飼料規制・死亡牛検査・牛トレーサビリティ関係のリスク管理の現状について、

また、厚生労働省からは、これまでのBSE検査に対する国庫補助の経緯と、と畜場・食肉処理場関係のリスク管理の現状について講演が行われました。



■ その後、パネリストと会場との意見交換が行われました。ここでは飼料輸出国での安全確保や、これまでの全頭検査のコストとその費用対効果、全頭検査を今後も行う自治体の実態、「全頭検査をしています」という食品表示の良否などに関する質疑応答が行われるとともに、「国や自治体は消費者が不安を払拭できる説明をもっと行って欲しい」などの意見が会場参加者から寄せられました。

■ 平成20年7月以降、20ヶ月齢以下の若齢牛のBSE検査を継続するかどうかは、各自治体の自主的な判断に委ねられています。こうした関係者の判断に資するためにも、食品安全委員会は引き続き、科学に基づいた最新情報を提供し、リスクコミュニケーションに努めていきます。

## 海外からの講師招聘による講演および意見交換会

食品安全委員会では、これまで海外から多くの講師をお招きして講演および意見交換会を開催しています。その講演テーマと概要の一部をご紹介します。なお、詳しい議事録や資料は、食品安全委員会ホームページでご覧頂けますのでご参照ください。



### FDA/CFSANのリスク評価 — リスク評価リソースの活用について —

平成19年3月7日（水）、米国食品医薬品庁（FDA）CFSANのロバート・ブキャナン博士より、米国における食中毒原因微生物等のリスク評価とリスク管理のフレームワーク、リスクコミュニケーション等について講演が行われました。明解なプロセスに基づいた実践的な手法の解説や実行上のアドバイスなど、充実した内容の講演でした。その後の意見交換では、微生物のリスク評価の特徴や評価に必要な要素などについて、活発な意見が交わされました。

HP <http://www.fsc.go.jp/koukan/risk190307/risk-tokyo190307.html>

- ロバート・ブキャナン氏（Dr. Robert Buchanan）：食品科学博士。FDA/CFSAN シニアサイエンスアドバイザー、科学局長。全米科学アカデミー新興感染症対策委員会委員。
- CFSAN：米国食品安全・応用栄養センター。添加物、汚染物質、バイオテクノロジー関連食品のリスク評価と、それらの危害要因や表示についての規制を行う。



### 食品安全に関する認知ギャップを埋める — EU SAFE FOODS プロジェクトの取組 —

平成19年3月19日（月）、英国食品研究所のジュリー・ホートン氏より、「専門家と消費者における食品の安全性への認識の相違をどう埋めるか」という課題に、EU SAFE FOODSプロジェクトがどう取り組んでいるか」について講演が行われました。専門家と消費者のグループを対象とした調査研究など、具体性に溢れた有意義な内容でした。その後のパネルディスカッションでは欧米と日本における消費者等のリスク認知の違いなどについての議論が交わされました。

HP <http://www.fsc.go.jp/koukan/risk190319/risk-tokyo190319.html>

- ジュリー・ホートン氏（Ms. Julie Houghton）：英国食品研究所消費科学グループ研究員。リスク認知、リスクコミュニケーション、それらの調査手法開発等の研究分野で活躍。2004年より欧州共同体の「SAFE FOODS」プロジェクトに参加。
- 英国食品研究所：食品及び食品に由来する疾病管理等を行う英国の研究機関。

# リスクコミュニケーター育成講座を各地で開催しています

HP [http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai\\_jisseki.html](http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html)

## リスクコミュニケーターとは？

■ 食品安全委員会では、平成19年9月から「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」を各地で開催しています。この講座は、地域でリスクコミュニケーションを実施する際に、様々な参加者（消費者、事業者など）の意見や論点を明確にすることで、相互の意思疎通を円滑にする役割を担う「リスクコミュニケーター」を育成するためのものです。

■ 対象は、食品安全委員会が平成18年から実施している「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」や、都道府県等が実施する食の安全に関する講座を受講した方などです。地方自治体職員、食品関連事業者、その他の公募による参加者の方々が熱心にこの講座で学んでいます。

## 講座の主眼はファシリテーション

■ リスクコミュニケーションを円滑に進めるために必要な技能の一つにファシリテーションがあります。ファシリテーションとは、「促進すること」「容易にすること」。会議やワークショップ等において参加者の意見を引き出し、活発な意見交換を行うことで、成果に結びつけていくよう支援するものです。

■ この講座では、まず、リスク分析の考え方や食品安全委員会の役割について理解した上で、ファシリテーションの基礎知識についての講義を受講。さらに「アイスブレイク（※1）」やファシリテーションの基本的なスキル（傾聴など）について実習し、実際にグループに分かれて「ワールドカフェ（※2）」や「付箋を使った話し合い（写真）」などの手法を体験します。

## 受講者の今後の活動に期待

■ 食品安全委員会は、今後、地方自治体が開催する意見交換会等において、この育成講座の受講生の方々が地域のリスクコミュニケーションを円滑に進める進行役として活躍されることを期待し、情報提供等を通じ活動を支援していくことにしています。

■ 今後も各地で開催する予定ですので、参加ご希望の方は、当委員会ホームページなどの公募情報をご確認くださいようお願いいたします。



会議風景。最初は子どもたちも緊張気味？

をしたらいいのかといった事柄について、楽しく、元気に学んでいただいています。

■ 食品安全委員会では、次代を担う青少年に対するこうした取組を、工夫を加えながら、今後も継続して実施していきたいと考えています。

## ジュニア食品安全委員会の開催について

HP <http://www.fsc.go.jp/koukan/junior1908/junior-tokyo190822.html>

■ 平成19年度から、小学校高学年の児童を対象に、楽しく食の安全を考える「ジュニア食品安全委員会」を、夏休み期間中に開催しています。

■ 参加児童は、ホームページ等を通じて公募した小学校5、6年生で、実際に食品安全

委員会が行われる会議室で食品安全委員会委員とともに円卓に座り、委員からの短い授業、食の安全に関するクイズ、参加児童が事前に準備した作文や標語の発表、委員とのディスカッション等を通じて、食品安全委員会の役割や、食の安全を守るためにどんな努力



## DVDの教材提供 地域でのリスクコミュニケーション活動を行う際に活用できる教材です。

食品安全委員会は、平成17年度以降DVD「気になるメチル水銀～妊娠中の魚の食べ方」など、食品の安全性に関する映像教材を作成しています。これらは、関係行政機関等に配布・貸出し、一部については映像配信しています。詳細は食品安全委員会ホームページをご覧ください。

HP <http://www.fsc.go.jp/osirase/dvd-ichiran.html>

- 21世紀の食の安全 ～リスク分析手法の導入～
- 遺伝子組換え食品って何だろう？ ～そのしくみと安全性～
- 気になる農薬 ～安心して食べられる？～
- 気になる食品添加物
- 何を食べたら良いか？考えるためのヒント ～一緒に考えよう！食の安全～

